



ふじさわ体協

発行・編集 藤沢市体育協会 〒251-0026 藤沢市鵠沼東8-2 秩父宮記念体育館内

URL <http://www.fujisawa-taikyo.org/>

スポーツシンポジウム2022 スポーツの力 ～たのしむ・はぐくむ・つながる～

10月10日(月)祝スポーツの日に藤沢商工会館「ミナパーク」6階多目的ホールで、藤沢市スポーツ連盟主催の「スポーツシンポジウム2022」が、「スポーツの力」をテーマに開催された。連盟所属のスポーツ関係6団体のスポーツ愛好者を中心に70名を超える市民が参加した。

基調講演では、「ふじさわプラス・テン体操」を広め、健康寿命日本一に向けて、ご貢献されている慶應義塾大学大学院健康マネジメント研究科准教授の小熊祐子氏が、スポーツの定義から、健康との関わり、スポーツへの参画の仕方、国や自治体のスポーツ行政、世界的な動向まで、スポーツを様々な観点から具体的に描き、わかりやすい貴重なお話がされた。

スポーツの語源はラテン語の「デポルターレ」という言葉で気晴らし、楽しむ、休養という意味合いのこと。スポーツは人生を楽しく、健康的で活力あふれるものにし、一人でも多くの人が、親しむことが大切という。しかし、日本では体を動かす人の割合が世界的な平均より低い。スポーツ基本法には、「スポーツは健康で文化的な生活を営む上で不可欠」とされ、スポーツ基本計画では「つくる／はぐくむ」「あつまり、ともに、つながる」「誰もがアクセスできる」が新たな三つの視点である。

藤沢市とは2013年から身体活動促進プロジェクト「ふじさわプラス・テン」の取組みを進め、高齢者の身体活動時間増加につながり、今年の3月にスポーツ庁の「Sport in Life アワード」の優秀賞をいただいた。世界では「健康的な世界に向けて一人一人よりアクティブに」という行動計画が作ら

れており、アクティブになる方法を紹介している。

基調講演の後は、5団体の発表者とともにシンポジウム。

■レクリエーション協会は、「レクリエーションは明るく楽しく元気が、モットー！」

■スポーツ少年団は、「子どもたちにスポーツの楽しさを！団員数の減少が課題。」

■スポーツ推進委員協会は、「若い人の参加を！三世代が出られるようなスポーツを！」

障がい者スポーツ連絡協会は、「スポーツの力は元気になること。障がい者スポーツの環境づくりを。」

■体育協会は、「加盟団体の活動場所の確保に苦勞している。」

などの意見も出され、有意義なシンポジウムとなった。(杉瀬)



スポーツシンポジウム

スポーツをたのしむ

11月6日(日)秋葉台文化体育館、球技場と秩父宮記念体育館でスポーツまつりふじさわ2022が開催された。秋晴れの中、多くの家族連れ、高齢者、若いグループの方々が参加した。

秋葉台体育館内のスポーツクライミング、トランポリン、フライングディスク、パラスポーツのボッチャ等に小さな子供が楽しむ姿が見られ大盛況でした。球技場では野球体験、ラグビー体験、ラクロス体験、グラウンド・ゴルフ体験、ターゲットバードゴルフ体験等の様々なスポーツに家族連れ、高齢者グループ、若いグループが多数チャレンジしていました。

また、併催された「ふじキュン♡」カード探しウォーキングも家族連れに好評でした。

秩父宮体育館にも家族連れの参加が目立った。弓道場でのフライングディスクは世代を超え、誰もが楽しめるスポーツである。ピザの焼き皿を投げ合って遊んだのが、フライングディスクの由来と言われている。秋の一日を多くの市民が楽しむことができた。(谷本)

スポーツまつり ふじさわ



スポーツクライミング



スラックライン



バスケットボール



グラウンドゴルフ体験



藤沢市カヌー協会主催 第13回 藤沢市カヌースプリント大会

第13回藤沢市カヌースプリント大会 兼 藤沢市民総合体育大会継承大会 カヌースプリント競技を10月30日(日)に開催しました。

今年も会場は引地川の河口近く、市立鶴南小学校にほど近いカヌー協会艇庫前に大会本部を設置し、17名の選手で200メートルのオープンコーススプリント競技を10時30分からのスタートで行いました。

種目は①レーシング系カヤックシングル(レーシング系シーカヤック、サーフスキー含)②レーシング系カナディアンシングル、③ツーリング系カヤックシングル(シーカヤック、スラロームカヤック含む)①から③をさらに小学生男子/女子、中学生男子/女子、高校生男子/女子、シニア1(高校生を除く18歳~35歳)男子/女子、シニア2(36歳以上)男子/女子に区分し様々な年代の方々が楽しんでいただけるレース種目を設定しています。競技方法はコースは200mで計測は種目別に2回ずつ計測し合計タイムで順位を決定しました。

各種目優勝者は①レーシング系カヤックシングル/中学男子:鮫島陽太。中学女子:高山小輝。シニア男子:千々波明洋。シニア男子2:板垣俊輔。シニア女子:井高絵蓮。シニア女子2:宮木清子。②ツーリング系カヤックシングル/小学男子:石川颯。小学女子:佐藤ななみ。でした。競技終了後には、参加者全員でエキシビジョンレースとして100m(50m回航)リレーを実施しターンの技術なども競い合い、大変盛り上がりました。コロナ禍の影響はまだ続きますが、来年もより多くの方が楽しんで参加頂ける様に内容の充実をはかり、藤沢市民のカヌーの運動会として盛り上げて行ければと思っています。お問い合わせは fujisawacano@gmail.com までどうぞ。(山口)



盛り上がったリレー競技



男子カヤックシングルで準優勝!

令和4年度 全国少年少女カヌー大会/日本カヌー連盟主催

7月22日から河口湖町で行われた少年少女の全国大会で、藤沢カヌー協会登録選手が力強いパドリングで見事2位入賞。

男子カヤックシングル200m

男子5年・6年:2位 石川 颯(いしかわ そう)



県大会優勝

鵜沼中学校が全国大会に出場! ~ベスト16入り

令和4年度の神奈川県中学校総合体育大会・神奈川県中学校サッカー大会において、鵜沼中学校は、決勝で桐光学園中をPK戦の未破り優勝。関東大会も突破し、山形県で開催された全国大会に出場。1回戦で山口県の小郡中に1対0で勝利し、2回戦では兵庫県の上甲子園中に惜しくも0対1で負けたが、ベスト16入りを果たした。

中村監督の指導の下、最後まであきらめずに戦う気持ちが、素晴らしい結果をもたらしたと思う。「地域の方々に支えられ、応援していただき3回目の全国大会出場を果たすことができました。これからも感謝の気持ちを忘れずに藤沢のサッカーの発展に尽力していければと思っています。」と中村監督は語られた。

全国高校総体(サッカー)と全国高校サッカー選手権大会に神奈川県代表として藤沢のチームが出場

2022年度の高校サッカー界では藤沢の湘南工科大学附属高校と日本大学藤沢高校の活躍が特筆される。夏の全国高校総体には、湘南工大附属と日大藤沢が揃って、準決勝を勝ち神奈川県の代表となった。決勝では、湘南工大附属が優勝した。

全国大会では、湘南工大附属はベスト8、日大藤沢は残念ながら1回戦で敗退した。藤沢市から県代表として2校出場したことは画期的であった。

そして、全国高校サッカー選手権大会神奈川県2次予選では、再び両チームが決勝で顔を合わせた。11月13日のニッパツ三ツ沢球技場では、両校生徒の応援団がバックスタンドで、拍手での応援が選手との一体感を表していた。試合は前半終了間際に日大藤沢が、後半終了間際に湘南工大附属が1点ずつ取って、延長に入り日大藤沢が2点を取り、インターハイ予選決勝の雪辱を果たした。

最後まで、あきらめずに戦った両チームの選手にスタンドからは大きな声援が送られた。また両チームの選手が互いに讃え合う姿は、スポーツの持つ「はぐくむ」力を体現していたといえよう。

日大藤沢の佐藤監督は、「全国大会での目標は優勝です。選手全員が動き相手を崩していくという、自分たちの魅力をさらに引き上げ、楽しいサッカーをしていきたい。」と抱負を語られていた。



インターハイ2校出場時の市長表敬



決勝表彰式

This is us

鵜沼高校バスケットボール部
県大会優勝、インターハイ出場が決まった日の試合前のミーティングを、鮮明に覚えている。「This is us」を掲げ、試合に挑んだ。
コロナの影響で、いくつも大会が無くなった。大会が開催され、試合ができるということは、決して当たり前前のことではなかった。
家族とよりも長い時間を仲間たちと過ごし、勝つための準備をした。インターハイベスト16の目標を叶えることはできなかったけど、全国の舞台で、仲間たちと、応援してくださる方たちと、みんなで夢中になれたのは最高



県大会優勝

の瞬間だった。鵜沼の挑戦は終わらない。全国への努力を、準備を、日々重ねていく。一生残る一瞬のために。(佐藤ひらり、マネージャー)

令和4年度 全国高等学校総合体育大会 水泳競技大会(インターハイ) 競泳女子総合優勝 3年ぶり3回目

日本大学藤沢高等学校 水泳部

令和4年8月15日~18日に高知県高知市で行われたインターハイで、日大藤沢高校が3年ぶり3回目の競泳女子総合優勝を果たした。



総合優勝

大会初日は愛知・豊川高校が1位だったが、2日目に2位から首位に浮上。3・4日目も順調に得点を重ね、頂点に立った。コロナ禍で思うように全体練習ができず、リレーの引継ぎもぶっつけ本番。

50名を超えるチームをまとめるのは難しかったが、主将がチームをまとめるために一人ひとりに手書きでメッセージを書いたり、マネージャーがお守りを全員分作成したり、まさにチーム一丸となった勝利だった。特に総合力が必要なりレー3種目で優勝2、準優勝1とチーム力を示すことができた。

女子学校対抗最終成績

- 1位:日大藤沢(神奈川) 280点
- 2位:豊川(愛知) 256点
- 3位:近畿大附属(大阪) 159点

第53回 日本少年野球選手権大会

2連覇!!



湘南クラブの皆さん



歓喜の場面

中学生を対象とした、野球と勉強の両立を目指す硬式野球チームである「湘南クラブ」が日本少年野球選手権大会で2年連続優勝を果たしました。その要因や今後の目標を監督の田代さんに伺いました。

—2年連続優勝おめでとうございます。

「この夏の大会は全員で優勝旗を返しに行くことを目標に地区大会を勝ち上がった。全国大会では、一戦一戦を楽しみ、大会に参加できる喜びを味わい、一日でも長くできるように楽しんで結果が優勝に繋がった。」

—ふだんの練習は？

「練習の拠点は寒川の倉見ですが、クラブに近い天神の広場や桐原野球場で守備練習をしたり、打撃練習はクラブに隣接した練習場で励んでいる。」

—クラブでは、体のケアをされていると伺いましたが？

「少年野球に取り組んでいる子は、練習量が多く故障しがちであり、整骨院のトレーナーの協力を得て、入団時に肩や肘の検査をしています。また、トレーナーには試合後には、必ずケアをしていただいている。」

—これからの目標は？

「中学2年生は来年全員で全国大会に出ることを大きな目標にしている。クラブでは、野球が生涯スポーツであることをしつつも、根っこが広がって欲しいことが目標である。野球が好きになり、勝つことが面白いことも感じてほしい。」

(写真提供 湘南クラブ)

全国優勝おめでとう

野球協会所属の「BLUE WINS(ブルーウィンズ)」が、神奈川県代表として、第28回関東・東北・北海道 壮年軟式野球選手権大会(40歳以上)に出場し、優勝しました。

大会は、10月8日(土)・10日(日)の2日間、福島県南相馬市で開催されました。

16チームが参加し、2日間で4試合と強行日程でしたが、全選手の奮闘とチームワークで栄冠を勝ち取られました。(中澤)



サッカー交流会

サッカーを通してつながる

10月30日(日)午前、暖かな日差しの中で、善行の「聖園子供の家グラウンド」で、サッカーを通じた出会いの場が開かれた。主催したのは、サッカー協会加盟の「湘南藤沢SC」。参加したのは、聖園子供を家の幼稚園児、小学生、中学生、高校生、先生方およそ30名。

幼稚園児とは、ボールに空気を入れるところから一緒に行い、自由にボールを蹴ったり投げたり、組み立てた小さなゴールに入ってボールと戯れるなど、原っぱを遊びまわった。

小学生、中学生、高校生とは、ボール3~4個を用い、3チームに分かれて手つなぎサッカー。体や技術はそれぞれ違うが、暖かい日差しの中で、互いに複数のボールを追いかけた。「ナイスパス!」など元気な声が響き渡った。

コロナ禍の中では、外で思う存分遊べなかったが、子どもたちは楽しい機会をもつことができたようだ。ボランティアとして、子どもたちと過ごし、新しいつながりができたのではないだろうか。



手つなぎサッカー

スポーツ人の集い

■日時 2023年 2月11日(土・祝)
■会場 藤沢市民会館
藤沢スポーツ賞の表彰など

※新型コロナの影響により、関係者にて実施予定

編集後記

今回は、各競技での若い世代の全国での活躍、および「スポーツの力」といえる「つながる」をキーワードに、シンポジウム、スポーツまつり、交流会で構成しました。

若い世代の活躍と世代をこえたつながりに未来を！ チーム写真は、各学校よりの提供です。(杉測)